

昭和四年三月十五日（第三種郵便物認可）
令和五年十月五日
（令和五年十月五日）
発行
印刷
納本

（毎月二回五日発行）

第九十六卷

第十号

第二二三七号

吉田苞竹創刊



令和五年（2023年）

十月号



公益財団法人
書壇院

公益財団法人書壇院は、書道の研究、教育及び普及に関する事業を行い、書道芸術の高揚と精神の修養、人格の陶冶を図ることを目的としています。



夫靈跡誕邁。必表光大之迹。玄功既敷。亦標希世之作。

(漢字臨書規定 〓 8頁)

課題

半切 〓 靈跡よりの作まで (二十字)
半紙 〓 必表光大之迹 (六字)



変わらないこと

片野 錦秋
かたの きんしゅう

コロナ禍で中止されていた事が四年ぶりに次々と復活しました。お祭りも花火大会も観光地もどこへ行ってもたくさんの方の笑顔が溢れています。また四季折々に花々は変わりなく咲き、自然は人々を楽しませてくれます。自分のための時間、趣味を持ちたいということで、子供の頃から馴染んできた書道を軽い気持ちで二十代後半から始めました。初めて知る事の連続でしたが、少しずつ、自分なりに真剣に取り組んできました。

長い間、書道を学んできましたが一年中、展覧会等に追われ、時にはそのことがストレスになる程の時もありました。大勢の人達が協力して研究会をし、開催の準備をします。仲間や、今は亡き先輩方から様々の事を学んできました。作品制作は、体は疲れても心が癒され、充実感があり、幸せさを感じてきました。

日々の生活の中でより良く変わろうとするのは良いことだと思いがちですが、変わらない努力が大切なものもあります。きのうと同じ今日が来ることを念じながら、明日も続く尊さを考えています。気が置けない友人との会話、それもかけがえのない日常です。平和で何でもない一日が、どれほど大切で、心豊かにしてくれるものであるかを改めて思います。

異常な暑さであった今年の夏の終わりに、変わらないことの大切さ、有難さを考えております。

令和五年 書壇 十月号 目次

表紙Ⅱ書壇院蔵 論経書詩

題字 集鄭道昭書

古典研究 表2

巻頭言 片野 錦秋 1

同人参考手本 品田 彩雨・星野 静代 2

保山・紫流・春洸・侗子

長澤 幽篁・藤原 豊道

競書課題 横山 菁綯 5

漢字規定 佐藤 節子 6

かな規定 大久保 楓紅 7

南画規定 鈴木 青雨・近藤 香照 8

漢字臨書規定 星野 静代・川井 眞由美 9

かな臨書規定 小林 未瑛・丸川 瑞江 10

日本文 益満 丁鑫 11

篆刻入門 唐詩案内④ 12

『書道讀本』 13

毎日書道展入賞者作品 15

第十五回日本文の書展案内 18

第九十回記念書壇院展公募要項 20

第一三二回審査会員遊苑 23

第二一三七回選書 24

写真・批評 成績発表 37

十一月五日締切課題予告 52

書壇院日記 53

パソコンド券申込書 54

応募規定・競書出品方法 55

書画の鑑賞 中井 言玉 表4

品田彩雨書

胡馬大宛名鋒後瘦骨成所批菱耳
峻極入回禱輕所白世其閑出堪託
死生誰勝焉如此萬里可橫行

胡馬大宛名鋒後瘦骨成竹批雙耳峻風入四蹄輕所向無空濶
眞堪託死生驍騰有如此萬里可橫行
(中国詩人選集)

星野静代書

夜
秋風きくや
裏の山

静代

— 河合曾良の句 —

終夜
秋風きくや
裏の山
(新編日本古典文学全集)

— 杜甫詩 —

夜深^ク風弄^シ竹^ヲ人静^ニ月當^ル樓^ニ

夜深風弄
竹人静月
當樓

紫流書

小川紫流書

楊中訥句

仰觀山俯聽泉

保山書

仰觀山俯聽泉

白樂天句

渡邊保山書

秋^あふかむ^あ夕日^あ明^ありや^あ枯^あ山^あ竹^あに^あ雀^あ羽^あばたく^あこの^あ閑^あけさを^あ

秋ふかむ
夕日明りや
枯山竹に
雀羽ばたく
この閑けさを

平井侗子書

北原白秋の歌

清秋竹露深

春洸書

清秋竹露深

曹學佺句

船山春洸書

同人参考手本

2尺×6尺額用

長澤幽篁書



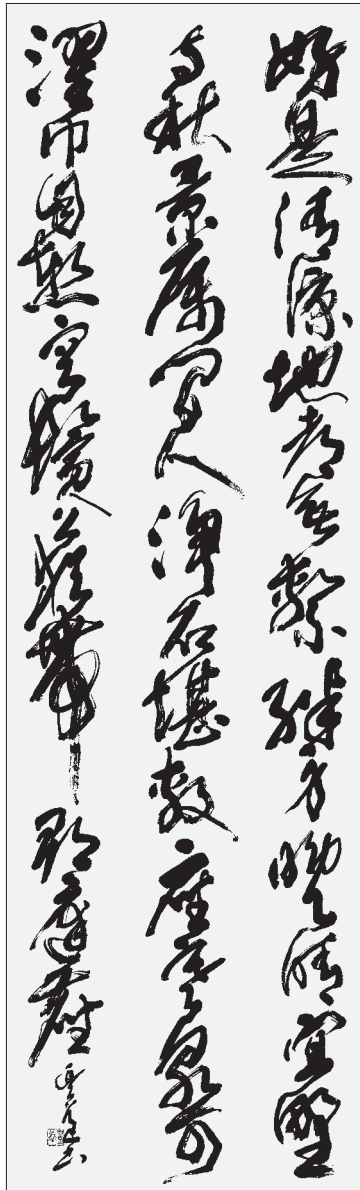
—陸機句—

猿^ハ長^ク嘯^ニ于^一林^{びよう}杪^ニ鳥^ハ高^ク飛^フ于^一雲^端ニ

(新修墨場必携)

用紙 中国画仙
筆 和筆 中鋒一号

藤原豊道書



—白楽天詩—

好^シ是^レ清^シ涼^ノ地^ヲ都^テ無^シ繫^ニ絆^{スル}身^ニ晚^ニ晴^ニ宜^{シク}野^ニ寺^ニ秋^ニ景^ニ屬^ス閑^ニ人^ニ淨^ニ石^ニ

用紙 紅星牌 棉料單宣
筆 和筆・中鋒三号

十月五日締切（行書）

漢字規定

半紙縦書

上位・準上位課題

金天方肅殺

送別崔著作東征

陳子昂

金天方肅殺

白露始專征

王師非樂戰

之子慎佳兵

海氣侵南部

邊風掃北平

莫賣盧龍塞

歸邀麟閣名

玄位／六位課題

雨過曉開簾——高啓——

（雨過ぎて暁に簾を開く）

雨が通り過ぎ明け方にはすだれを開いた。

参考手本 玄位／六位 横山青絢書

雨過暁

開簾

高啓書

雨—大きくなりすぎないように。

過—シンニヨウを書く時の抑揚に注意しましょう。

暁—扁と傍のバランスを考えましょう。

開—モンガマエの書き順を正しく。

簾—横画を細く書いて全体が大きすぎないように。

にしきましょう。

次号課題（予告） 52頁参照

十月五日締切

かな規定

半紙縦書

極位・準極位課題

冴^さえわたる 光^{しほ}を霜^{しも}に ま
がへてや 月にうつろふ
白菊^{しらかぎ}の花

(藤原家隆)

妙位ゝ6位課題

十月^(かみなつき) しぐれに^{耳部}あへる 黄^{毛美}
葉^{ぢぢ}の 吹^布かば散^{奈無}りなむ 風
能^能万^万尔^尔に^にまに^{まに}まに^{まに}

(大伴池主)

次号課題 (予告)

52頁参照

参考手本

妙位ゝ6位 佐^さ藤^{とう}節^{せつ}子^こ書

※かな漢字相互の変換、ちらし自由。落款は〇〇かく+印。

文字や散らしを変えてみましょう。

参考手本 大久保楓紅画

—蘭・竹・石—



十月五日締切

南画規定

※横三五センチ、縦二七センチ（小画仙紙半切五分の二）の用紙を横に揮毫のこと。

南画初学講座（一二七）

おおくぼ ふうこう
大久保 楓紅

本講座は、これまで書壇誌に掲載された大久保楓紅先生（一九一九～二〇〇二）の作品を参考手本として転載しています。

今月は蘭、竹、石、と組合わせて見ました。今までの復習のつもりで思い出して工夫しながら形良く紙面に入れて下さい。

簡単に順序を申します。先ず蘭を画面の右手前にやや斜めに描きます。次に蘭の後に石をかいて、石の後方より魚尾竹をのびのびと描きます。石は峻を入れて淡墨でぬり、最後に点苔をうちます。墨色に気を付けバランスよく描いて下さい。讚は「蘭竹争娟」——蘭竹娟を争う——です。

次号課題（予告） 52頁参照

十月五日締切

漢字臨書規定

小画仙紙半切・半紙縦書

参考資料表紙内側

魏靈藏薛法紹造像記——龍門二十品——



鈴木青雨

龍門・魏靈藏薛法紹造像記は北魏龍門造像記中もつともすぐれた楷書の一つであると言われている。

中国における石窟造像はおおよそ四世紀に始まり、北魏を経て随唐にいたる時期に行わ

鈴木青雨 臨 半切参考手本（上位／六位）

れている。その中で龍門石窟は洛陽の南郊の伊水を挟み東西兩岸に大小多数の石窟がある。これらのうち最も古い窟といわれている古陽洞の中に魏靈藏薛法紹造像記がある。龍門石窟内の造像記は三六〇〇余种あると言われており、そのうち北魏の紀年のあるものは約二千余件あるという。

今回課題の造像記は、鉅鹿の魏靈藏と河東の薛法紹の造像記である。二人は官位の低い地方官であって史書には見えない。陸渾県は龍門から伊水を五十キロばかり遡ったところ今の嵩原のすこし下流にある。

これら造像記の書は清の乾隆以後、書とし

靈跡誕邁必表光大之迹
玄功既敷衆櫟齊世之作

青雨臨

ての面白さが謳われ、今日にいたっている。

私はこの石に刻した力強い文字に魅力を感じて長年臨書をしてきました。特に本碑においては、方筆で激しい用筆、鋭角的な形、右肩上がりの強い構成等に注目し、豪快な運筆に留意して臨書致しました。

皆さんの力作を期待しています。

必表光大之迹

近藤香照臨

近藤香照臨 半紙参考手本（上位／六位）

次号課題（予告）

53頁参照

十月五日締切

かな臨書規定

高野切第二種

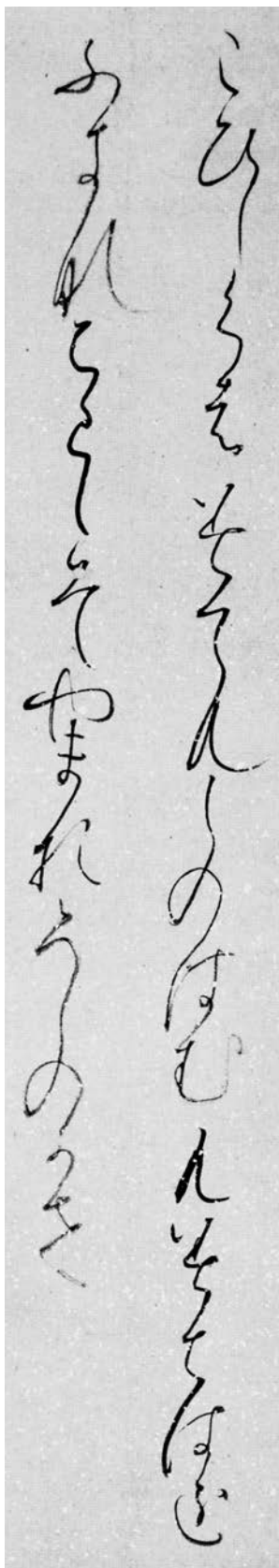
— 十一 —

半紙縦半切

極位ゝ2位

左を半紙縦半切に臨書すること

(二玄社 日本名筆選③)



こひしくは 者 みて 美 も 无 しの 美 ば 无 む 美 も 无 み 美 ぢ 美 ば 无 を 支那 ふ 支那 き 支那 な 支那 ち 支那 ら 支那 し 支那 そ 支那 や 可世 ま 可世 お 可世 ろ 可世 し 可世 の 可世 か 可世 ぜ 可世

今月は秋歌で、恋しい時には紅葉の盛りの頃を思い出にしよう、木を離れ散り敷いた紅葉々々を吹き散らしてくれるな、山おろしの風よ、と。すべて仮名表記の三十二文字が趣深く書かれていて、筆者の力量を強く感じる一首です。鋒先を利かせてじつくりと書き進め、三句目と四句目の半ばで墨継ぎをして強めの運筆。終句はゆつくりと渴筆気味に。墨量の変化の妙が際立ちます。やにまを添わせ効果的です。四箇所あるしのの違いを的確に捉えてください。十分目習いをしてから臨みましょう。

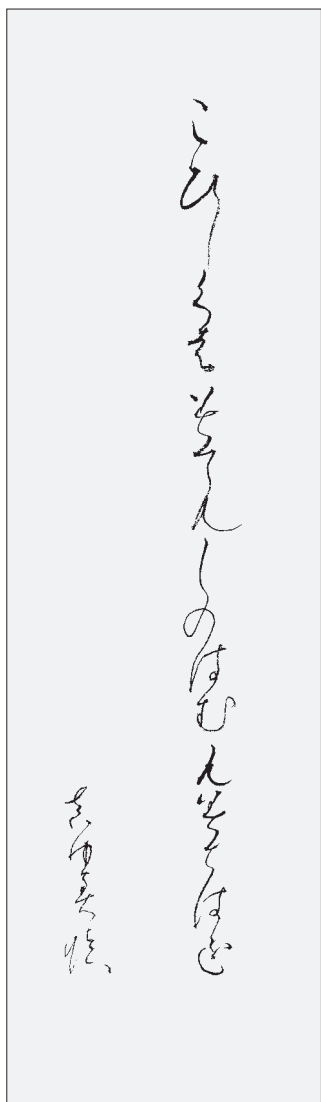
(星野静代)

3位ゝ6位参考手本 川 かわ 井 い 眞 ま 由 ゆ 美 み 臨

3位ゝ6位

半紙縦半切に臨書すること

こひしくは 者 みて 美 も 无 しの 美 ば 无 む 美 も 无 み 美 ぢ 美 ば 无 を 美



次号課題
(予告)
53頁参照

①条幅規定 半切タテ 参考手本 小林未瑛書

武蔵野は落葉の聲に
明け暮れぬ雲を
帯びたる日はそらを行く

武蔵野は 落葉の聲に 明け暮れぬ 雲を帯びたる 日はそらを行く

(若山牧水)

漢字と仮名の調和。
余白を生かし、散らし
の構成を意識しました。

②半紙規定 タテ

参考手本

丸川瑞江書

橋見えて 暮れかかるなり

秋の空

(小林一茶)

③半紙随意 書体・文言自由。半紙ヨコ

次号課題
(予告)
52頁参照

篆刻入門

(二四七)

益満丁ますみつていあん盦

十月五日締切課題

○規定「看風使帆」

○随意（または摹刻を含む）

○印は3cm以内、摹刻は原印大とします。

○54・55頁応募規定をご覧ください。

※出品票を貼ったバーコード券を必ず貼付してください。

規定参考 益満丁盦作



看風使帆（風を見て帆を使う）それぞれの場合に応じ、自在に対応すること。

《応募作品アドバイス》

今月の課題は「切磋琢磨」でした。

説文解字成立以降に派生してできた文字を「後起字」といい、小篆の形がありません。後起字は派生元の篆（本字）を用いるのが篆刻における一種の作法になっています。

今回の印文では磋、磨が後起字で、本字は磋、礪になります。磨字は漢印に見えますので使えますが、磋字は古代に用例がありません。気の利いた字書なら「磋は本、磋に作る」等と書いていますが、全てをカバーするものではありません。

字書にない文字を偏旁を組み合わせて篆書化することは、固有名詞を除き伝統的な手法ではありませんので、できれば本字を用いたものです。このような本字の調査は、『小篆疑難字辞典』（上海书画出版社）、『篆通假校補』（西泠印社）のいずれかがあれば便利です。

字書にない文字を偏旁を組み合わせて篆書化することは、固有名詞を除き伝統的な手法ではありませんので、できれば本字を用いたものです。このような本字の調査は、『小篆疑難字辞典』（上海书画出版社）、『篆通假校補』（西泠印社）のいずれかがあれば便利です。

規定

○蘭陽さん、刀が生きています。磋字の差横画は覆勢にせず、水平に切った方が良くもありません。

○流芳さん、漢銅印に倣った見事な作品です。刻が深く落ち

着きがあります。

○旭霜さん、雅味ある作品になりました。線の古色、磋字玉偏の厚みも効果的です。

○清苑さん、努力の跡が見られます。切字の空間処理もうまく行きました。もし印刀が進みにくいと感じたなら、線に対して刀の刃を四十五度ほど開くと楽に切ることが出来ます。

随意

篆刻課題は「後將軍假司馬」でした。

○旭霜さん、見事な摹刻です。もう少し転折の角が欲しいところですが。

柴 蘭陽



堀 流芳



菅波 旭霜



二宮 清苑



摹刻参考



大醫丞印

菅波 旭霜



十一月五日締切規定予告

「天行健」